

せいけん  
詩集

第六十四篇

作：近藤せいけん

## 「二十二の瞳」

朝 一列になつてキラキラと光る

二十二の瞳が登校して来る

宮ヶ瀬湖のほとりに建つ 宮ヶ瀬小

白いヤギが やさしく出迎える

全校児童 十一名の 小さな 小さな

小学校 たくさんの野草が咲く校庭

自然の宝庫

校内から 元気な歓声が聞こえる

学び 遊び 友情 助け合い

みんな みんな 固い絆で結ばれている

丹沢の山々深く 湖を渡る風 優しい

四季の移ろい 色彩 くつきりと

宮ヶ瀬小をつつむ

学び 遊び 運動 劇

みんな みんな 手をたずさえて

夢 希望 未来に向かつて

羽ばたけ 輝け

大きく 強く

二十二の瞳